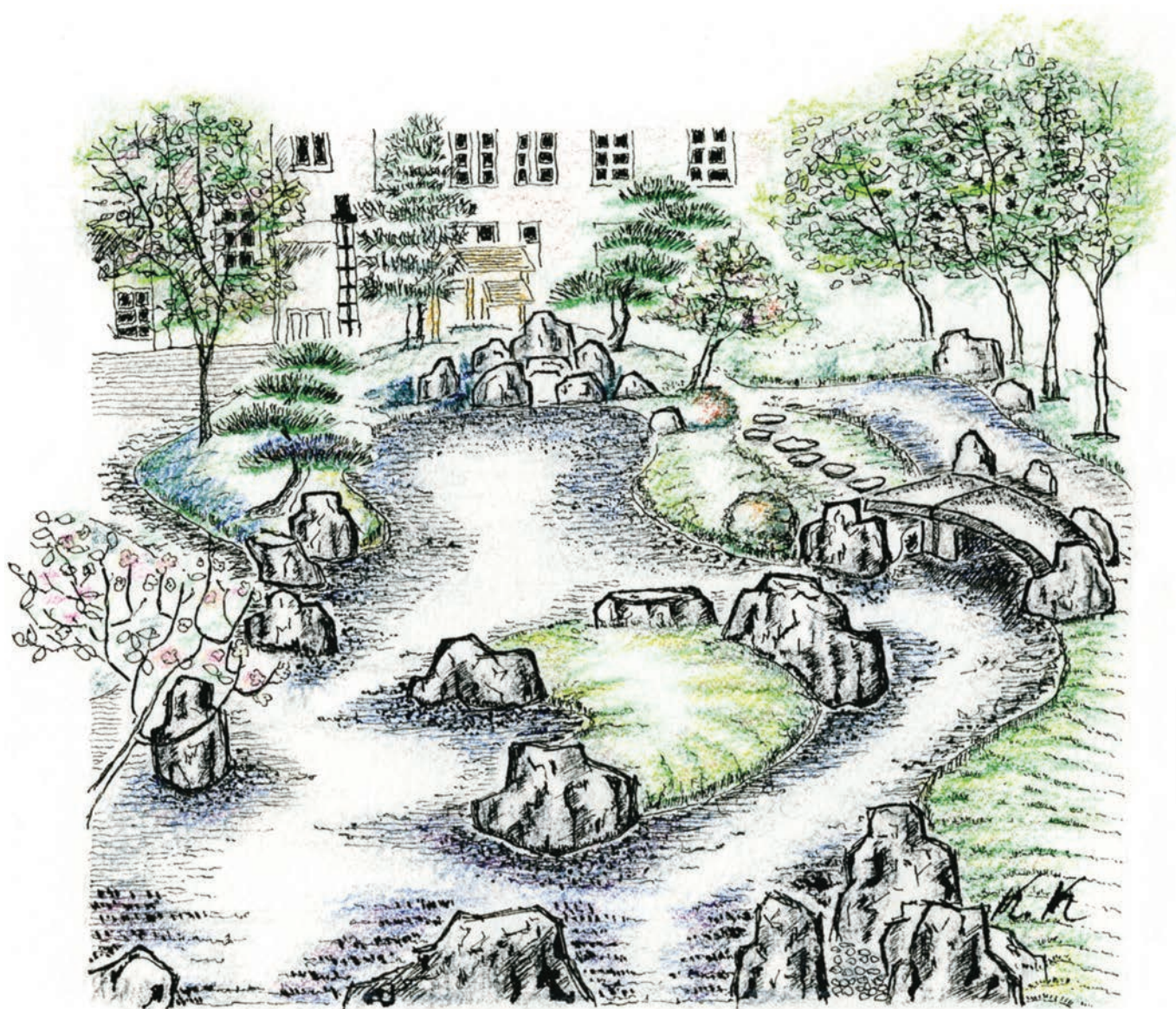


秋田県・甘肅省 友好提携40周年記念

友誼園

—友好の足跡—



一般社団法人 秋田県造園協会

CONTENTS

目次

発刊にあたって	ワーキングチームリーダー 一般社団法人 秋田県造園協会 前会長	加藤 薫 … 01
挨拶	一般社団法人 秋田県造園協会 会長	松本 昭広 … 02
祝辞	秋田県知事	佐竹 敬久 … 03
祝辞	甘肅省人民政府外事弁公室 主任 甘肅省人民対外友好協会 会長	張宝軍 … 04
式典関係		
甘肅省外事弁 表敬訪問		05
蘭州市・蘭州理工大学 表敬訪問		06
現地監修・意見交換 等		07
庭園		
計画の推移		
甘肅省蘭州に「日本庭園」を作る計画の推移		11
甘肅省に作庭する日本庭園に係るワーキングチームの第1回打ち合わせ会議 次第		19
構想平面図		20
中国側制作のシミュレーション		22
甘肅省友好記念庭園建設報告書(1990年)		23

発刊にあたって

ワーキングチームリーダー
一般社団法人 秋田県造園協会 前会長

加藤 薫



2019年8月27日から9月2日まで、秋田県と甘肅省の友好交流事業として甘肅省から招聘され、甘肅省蘭州市を訪問した際、甘肅省人民対外友好協会友城工處處長の朱玉明氏と知り合い、氏が日本庭園に非常に興味を持っていることを知りました。

帰国後の2020年1月、思いもよらず朱玉明氏から、秋田県・甘肅省友好提携40周年を記念し、甘肅省蘭州市に日本庭園を作りたいので、設計および工事指導してほしいとの要請があったことが、この協力事業を始めたきっかけです。

私は、今から33年前、秋田県造園協会の会員が中心となり甘肅省蘭州市に日本庭園「友誼園」を作庭した折にも甘肅省に行き、現場状況や資材調達現地調査に携わったこともあり、幾分ではありますが蘭州市の気候風土や採取する石、樹木の場所も知っていることから、設計や作成指導の手助けが出来るのではないかと思ひ、承諾する旨伝えました。

しかしながら、2019年12月、新型コロナウイルスが世界中に蔓延し、日本から中国への渡航が出来なくなり、結局、作庭する現地調査や資材調達現地調査は出来ず、現地から送られてきた写真を基に設計する事になりました。

設計は主に吉田豊史氏を中心に行われましたが、秋田県造園協会内にワーキングチームを起ち上げ数回の協議を経て、設計図を完成させ県庁国際課を通じて甘肅省へ届けることが出来ました。

ワーキングチームの皆様にはお忙しい中、協力くださり感謝申し上げます。

実際の作庭工事に当たっても新型コロナウイルスの影響で現地指導が出来ず、現地作業員が作庭している進捗写真での確認となってしまいました。

今回、秋田県・甘肅省友好提携40周年記念事業の一環として、甘肅省蘭州理工大学の構内に作庭された日本庭園「友誼園」(33年前に作成した日本庭園と同じ名前になった。)の監修に行ってきましたが、多少趣が異なる所は見受けられるものの、大筋日本庭園となっていることに感心しながら、庭は完成後の「手入れ」が重要であることの共通認識を得ました。

この日本庭園「友誼園」が秋田県・甘肅省の造園文化を通じた友好と、次世代を担うティーンエイジャーに日本の庭の芸術を理解してもらい、共に心安らぐ緑豊かな街づくりを实践されることを願っております。

挨拶

一般社団法人 秋田県造園協会 会長
松本 昭 広



この度、秋田県・甘肅省友好提携 40 周年の記念として、蘭州理工大学の敷地内に日本庭園が作られたことは造園人として喜ばしい限りです。

さらに、これが秋田県造園協会の設計に基づいたものであることに、感謝申し上げます。

今は蘭州市の都市計画によりなくなりましたが、1990 年秋田県造園協会の会員の手により蘭州市に作成した日本庭園の名称が「友誼園」で、今回作成された日本庭園にその名称が使われたことは大変感慨深い思いです。

本年 7 月 5 日から 5 日間の旅程で加藤前会長と共に甘肅省蘭州市を訪れる機会があり、新たに作られた友誼園の監修に行ってまいりました。

当初は秋田県造園協会の会員が作成指導を行う予定であったそうですが、新型コロナウイルスの感染拡大により渡航困難となり、結局、現地職人のみでの作成となったと聞きましたが、協会で設計した構図に沿った日本庭園が出来上がっており、技術の高さが感じられました。

今後、この庭園が適正な維持管理の下、秋田県と甘肅省の友好のシンボルとして存続されることを望みます。

今回、日本庭園作成の軌跡として「友誼園—友好の足跡—」を発刊するにあたり、多くの皆様に蘭州理工大学に秋田県造園協会が設計した日本庭園があることを知ってもらおうと共に、観光等で訪中した際には是非足をお運びいただき、秋田県と甘肅省の友好交流が庭園を通して末永く続くことをご祈念申し上げます。

祝辞

秋田県知事
佐竹 敬 久



秋田県と甘肅省の友好交流の証ともいえる日本庭園「友誼園」が完成し、完成までの軌跡を辿った「友誼園—友好の足跡—」が発刊されますことを心よりお祝い申し上げます。

また、「友誼園」建設に当たりまして、御尽力いただいた甘肅省人民政府、蘭州理工大学、(一社) 秋田県造園協会、その他の関係者の皆様に対し、厚くお礼を申し上げます。

2019 年に秋田県訪問団が甘肅省を訪問した際、かつて建設した日本庭園の報告をしたことに端を発し、その後、省側から正式に、県省友好提携 40 周年記念事業の一環として蘭州理工大学の敷地内に日本庭園を建設したい旨の依頼があり、このプロジェクトがスタートしました。

しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により建設延期を余儀なくされ、当初の計画遂行も困難を極めたものの、関係者が連携し創意工夫を重ねながらこの難局を乗り越え、無事完成に至りました。

県としましても、昨年 7 月に行われた(一社)秋田県造園協会による現地での技術指導・監修を支援するなど、日本庭園の完成は、まさに官民一体となった取組の成果であると考えます。

甘肅省は秋田県がはじめて友好協定を締結した海外地方政府であり、今日に至るまで、文化交流をはじめ、スポーツ、農業、林業、医療などの分野で交流を積み重ねてきております。

秋田県民が世界に目を向けるきっかけをつくっていただいた地域であるほか、中国の皆さんとの交流の扉を大きく開く契機となった重要な存在です。

県としては、これからも甘肅省との交流を推進し、日中友好を深めるための取組を一層進めてまいりますので、関係者の皆様の御協力をお願いします。

今後、多くの市民の方々に「友誼園」を御覧いただくことで、秋田への関心が高まり、交流促進につながることを願っております。特に、蘭州理工大学の学生の皆さんには、身近な存在として親んでもらいながら、将来秋田県を訪問し、秋田の文化に触れていただくきっかけとなれば、これほど嬉しいことはありません。

「友誼園」が、県省の友好交流のシンボルとして、末永く親しまれる存在になるとともに、今後の県省交流の架け橋となることを心より期待しています。

祝辞

甘肃省人民政府外事办公室 主任
甘肃省人民对外友好协会 会长
張 宝 軍



「甘肅 秋田友誼園」事業が無事に完了したとの報告を聞き、甘肅省人民政府外務弁公室および甘肅省人民協會を代表して、このプロジェクトに多大なご支援していただいた秋田県庁と秋田県造園協会、甘肅蘭州理工大学、一山造園会社などの、中国と日本の機関の皆様から感謝申し上げます。

甘肅省と秋田県は1982年8月に姉妹都市を締結して以来、双方は各分野で積極的に友好交流を行い、成果を上げてまいりました。特に両県友好提携40周年を記念して、私たちは協力し蘭州理工大学に日本式の「友誼園」を共同で建設することができました。今後も長年にわたり、両県省の間の友好的な交流に多くの彩りを添えていきたいと考えております。

新型コロナウイルスの影響で、「友誼園」プロジェクトは当初の構想、設計から建設、完成まで3年以上を要し、容易な道のりではありませんでした。2019年秋、秋田県企画振興部国際課と秋田県造園協会から秋田県友好訪問団が甘肅省を訪問し、創立40周年の記念行事について協議しました。翌年初め、甘肅省人民外国友好協會は友好40周年を記念して両省・県が協力して蘭州市に小さな日本式庭園を建設することを提案いたしました。幸いなことに、この提案は秋田県によってすぐに承認されました。両者は、秋田県造園協会がプロジェクト設計と技術指導を担当し、蘭州理工大学がキャンパスの用地選定と建設を担当し、秋田県庁国際課と甘肅省人民外国友好協會は中日間の日常的な連絡と連絡調整を担当することで合意しました。コロナの影響で日本側の専門家が直接現地にきて事前調査や建設指導を行うことはできませんでしたが、両方は電子メールやウィチャットなどを通じて積極的に意思疎通や適宜意見を交換して、一連の難題を解決しました。そして両者の協力により、2022年末には「甘肅秋田友誼園」の建設が完了しました。2023年7月、秋田県庁は秋田県造園協会代表団を蘭州市に派遣し、代表団の皆様「友誼園」の視察や開園式に出席をしていただくことができました。

現在「甘肅秋田友誼園」は、大学キャンパス内の美しい景観、蘭州市民の休暇とレジャーの場所、甘肅省と秋田の友好の象徴となっています。より多くの秋田の友人の皆様が友誼園に来て、実際に見て歩き、この喜びを分かち会えることを願っています。

今後も、秋田県と甘肅省の友好関係が益々発展し、末永く続くことを心からお祈り申し上げます。

致 辞

欣聞「甘肅・秋田友誼園」項目順利竣工，對此我表示衷心的祝賀，並代表甘肅省人民政府外事辦公室、甘肅省人民對外友好協會對該項目給予大力支持的日本秋田縣政府、秋田縣造園協會，以及蘭州理工大學和一山園林景觀設計公司等中日相關機構表示由衷地感謝！

甘肅省與秋田縣自1982年8月締結友好城市關係以來，雙方在各個領域積極開展友好交流，成果豐碩。特別是在紀念兩省縣結好40周年之際，我們攜手合作，在蘭州理工大學修建了這座日式庭院風格的「友誼園」，為雙方多年的友好交流畫上了濃墨重彩的一筆。

受新冠疫情影响，“友誼園”項目從最初的構想、設計到施工、竣工，歷時三年有餘，實屬不易。2019年秋，由秋田縣政府企画振興部、國際課和秋田縣造園協會等派員參加的秋田縣友好代表團應邀訪問甘肅，商討慶祝2022年兩省縣結好40周年事。翌年初，甘肅省人民對外友好協會提議，由兩省縣合作在蘭州市新建一處日式庭院風格的小型花園，以此紀念結好40周年。可喜的是，這一提案很快得到了秋田縣的贊同。雙方協定，秋田縣造園協會負責項目設計和技術指導，蘭州理工大學負責校內選址和施工，秋田縣政府國際課和甘肅省人民對外友好協會負責中日雙方日常聯系和

沟通协调。虽受疫情影响，日方专家未能亲临现场进行前期调研和施工指导，但双方通过邮件、微信等方式，积极进行沟通，及时交换意见，解决了一系列难题。终于，在双方的共同努力下，2022年年底，“甘肅・秋田友誼園”修建完成。2023年7月，秋田縣政府委派秋田縣造園協會代表團訪問蘭州，考察了“友誼園”並出席開園儀式。至此，“甘肅・秋田友誼園”項目畫上了圓滿的句號。

目前，“甘肅・秋田友誼園”儼然已是大學校園內一處美麗的风景，也是蘭州市民假日休閒之地，更是甘肅與秋田之間友誼的象徵。我們期待更多的秋田朋友們能夠來“友誼園”走一走、看一看，與我們共同分享這份喜悅。我們也衷心祝願甘肅與秋田的友誼之樹枝繁葉茂、萬古長青。

甘肃省人民政府外事办公室 主任
甘肃省人民对外友好协会 会长 張宝軍

甘肅省外事弁 表敬訪問



秋田會館(棚の中は秋田県産品)



秋田県と甘肅省の交流事業紹介



秋田県観光地、県産品展示室入口



秋田県観光地、県産品展示



甘肅省より会長に記念品を授与



甘肅省より前会長に記念品を授与

蘭州市・蘭州理工大学 表敬訪問

現地監修・意見交換等



蘭州市内の様子



蘭州理工大学構内



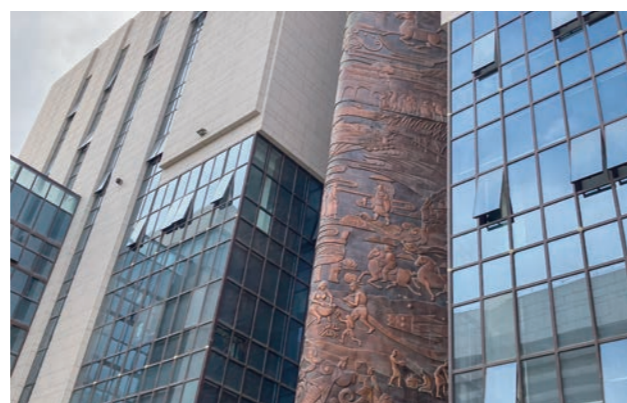
蘭州理工大学の説明



蘭州理工大学の説明



蘭州理工大学構内の公園



蘭州理工大学 図書館棟



秋田県造園協会寄贈の鳥瞰図



友誼園監修の様子



秋田県側訪問団と甘肅省関係者(寧臥庄賓館)



友誼園監修の様子



「友誼園」の監修と「桜園」参観後の技術交流



「友誼園」の監修と「桜園」参観後の技術交流



蘭州理工大学にて(監修・参観後意見交換会)



甘肅省蘭州に「日本庭園」を作る計画の推移

秋田県・甘肅省友好提携 40 周年記念事業 秋田県甘肅省庭園交流事業

1. 経緯

○2019年6月10日に甘肅省から秋田県友好訪問団の招聘依頼があった。1982年8月の友好協定の締結以来、交流を重ねてきた。今後も交流推進を図るため、秋田県など行政府関係と、秋田県造園協会など民間関係者を招聘し、友好提携40周年に向けて、交流拡大に向けた検討会を開催し、民間レベルでの交流を促進する。

○2019年8月30日～9月5日の日程で、甘肅省、秋田県、秋田県日中友好協会と共に秋田県造園協会会長等6名が友好交流の推進のために訪中し、以前建設した日本庭園「友誼園」について、持参した当時の報告書を甘肅省側代表団に提示し、30数年前の事業の報告をした。

○2020年1月3日に甘肅省人民対外友好協会から庭園建設の依頼。

前年訪問した甘肅省人民対外友好協会友城工作處處長朱玉明氏より連絡があった。《前年送った「日本庭園」に掲載の西芳寺をはじめ、日本の庭の歴史と保存について深い感銘を受けた。中日世代友好のため、中国の青少年も日本の庭園芸術を理解するため、蘭州市内の大学に日本庭園を建設する計画があり、庭園の設計及び建設指導をお願いしたい。来年の40周年記念に庭園の落成式と式典を共に行いたい。》

2. 日本庭園の概要について

1 趣旨

日本秋田県造園協会
加藤 薫 会長

新年之際、謹向您致以诚挚的问候和美好的祝愿！您10月11日来信收到，感谢您寄送的《日本庭院》。我时常沉醉于书中精美的图片，驚歎於日本寺院之历史和保存之完好。西芳寺的青苔，鹿苑寺的金閣、大仙院の石頭、桂離宮の燈籠，給我留下深刻的印象。

為了讓中日兩國人民世代友好下去，讓中國的青少年更好地理解和欣賞日本園林藝術，我構想在蘭州一所開設日語專業的大學校園內，修建一座大約100平米的日本庭院。修建所需費用申請由甘肅省政府出資，請秋田縣造園協會設計方案並指導建設。2022年落成並舉行開園儀式，以紀念甘肅省與秋田縣締結友好關係40周年。我期待您的回復。我期待不久与您再次見面。

朱玉明

友城工作處處長
2020年1月3日

日本国秋田県造園協会
加藤 薫 会長

新年にあたり、心からご挨拶とご祝福を申し上げます。2019年10月11日のご手紙と一緒に送ってくださった「日本庭園」の本が素晴らしいです。どうもありがとうございました。この本の美しい写真に夢中になって、日本の寺の歴史とそれらの完璧な保存について感心いたしました。西芳寺の青苔、鹿苑寺の金閣、大仙院の石景と桂離宮の灯籠などが、私に深い印象を残しました。

中日両方の世代友好のため、また中国の青少年も日本の庭園芸術を理解できるようにするため、蘭州市で日本語学科を設置している大学に約100平方メートルの日本庭園を建設する提案があります。建設の費用は、こちらの方から甘肅省政府に申請させていただきます。秋田県造園協会の方は、庭園の設計提案と建設指導についてお願いいたします。この庭園の落成式と2022年の甘肅省と秋田県の友好提携締結契約40周年の祝う活動を、一緒に行うことができれば幸いです。

皆様のご意見はいかがでしょうか？ご返信を待ちたいします。これからも造園協会の皆様とお会いできることを期待いたします。

甘肅省人民対外友好協会
朱玉明
2020年1月3日



甘肅省の工事担当者と監修の様子



正面入口庭門周辺



入口からの四阿周辺



四阿と小滝石組



飛石から石橋へ



四阿周辺



四阿側小滝石組と流れ



甘肅国際コミュニケーションセンターのインタビュー

秋田県と甘肅省は1982年8月の友好協定締結以降、官民が連携し幅広い分野に交流を重ねてきた。今後も多様な交流推進を図るため、40周年の節目に、日中両方の友好のため、また中国の若い人達にも日本の文化である日本庭園芸術の理解を深めるため、蘭州理工大学内に日本庭園を建設する。

2 意図

様式 枯山水回遊式庭園

構成は意図的に簡素なものを基本構造とし、現地での判断調整を以て日本的なものの創出を図る。

庭園要素を石庭に見出し、簡潔な中にも自然的整合性を活かす。

現地の生態環境の中で生育可能な植物材料を配置し、順応性を重視する。

東島と西島を結ぶ石橋を架け、友好のシンボルとする。

3 実施の時期

計画・設計：計画 2020.3.11 設計 2021.7.30

施工（当初）：2022.4.1 2022.4.30 2022.10.15（実施）

4 実施体制

実施主体：甘肅省、蘭州理工大学、一山景観

設計監修：一般社団法人秋田県造園協会

後援 秋田県

5 経費

計画・設計：一般社団法人 秋田県造園協会

工事費：甘肅省が施工

秋田造園協会概算見積額 2千万～3千万

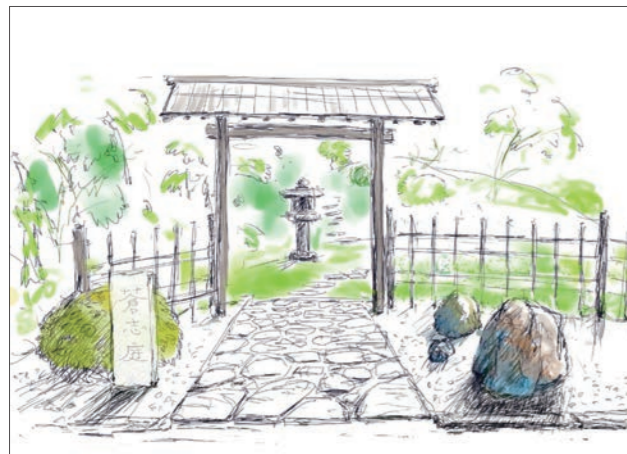
諸費用

3. 諸課題

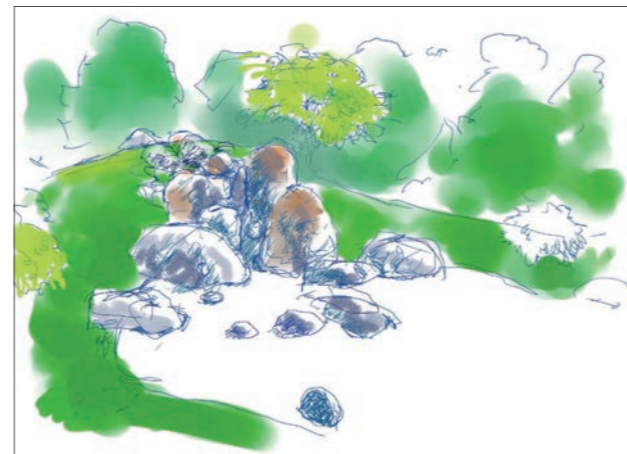
秋田県側：秋田県、秋田県造園協会

甘肅省側：甘肅省、蘭州理工大学、一山景観

が関係する事業であり、順調に進むかと思えた計画が、想定外のコロナ禍で予測のつかない状況が



庭園入口



主滝石組

しばらく続いた。情報量が少なく、交換もスムーズにできなかったことでずい分気をもんだ。リモートで開催予定の記念式典が中止になったりした。

4. 庭園の施工

甘肅省側が秋田県造園協会の設計書を基に施工した。施工中は不明点等、その都度メールで確認しながら工事を進めた。甘肅省側は設計図面を検討した上で、設計内容、コスト等を考慮の上変更を重ねて、完成にこぎつけた。

後日、設計、工事を担当された一山景観から資料を提供いただき、設計・検討から施工までの甘肅省側の状況が判明し、経緯を納得した。

5. 出来映え

- ・庭園のアプローチは石張から板張に変更されていた。
- ・庭園は両袖の竹垣と共に木製に変更され、中国風の作りになっていた。
- ・回遊する飛石の打ち方が、一直線になって変化がとぼしいのと、突き固めが不足していた。
- ・石組は瀧石組と景石は氣勢の感じが良く出て、日本式に近い石の扱いで卓越している。
- ・四阿と庭門はいずれも中国風建築物であった。
- ・友好のシンボルである石橋は、細工の高度な太鼓橋になっていた。
- ・石砂利は直径2cm～4cmの白砂利がしっかり敷き詰められ、ていねいな仕事ぶりが感じられた。
- ・植栽は、常緑針葉樹が主体で温帯大陸性気候で広葉落葉樹は少ない。
- ・芝生は、いきおい良く成長し、敷砂利とのラインがくっきりとして美しい。
- ・大学構内のコの字形の校舎に囲まれた場所に完成した友誼園は、規模の大きい日本式中庭を連想させる。そして、構内の公園と緑地の景色とは異なった雰囲気をかもしだす空間だった。

6. まとめ

この度、秋田県、甘肅省庭園交流事業を終えて、今、造園業界は、将来魅力ある方向性が見えづらい状況にあると推察する。今回の庭園交流事業が、これからの造園事業を展開するにあたりいささかでも参考になれば幸いである。また、設計の検討は施工を担当された甘肅側の業務内容を知り得ることで、改めて中国の技術、技能の力量の高さを実感した。



上空からの全景

年月日	概要	対応相手
2019年		
8月30日 ～9月5日	甘肅省、秋田県友好記念行事の一貫で甘肅省より招聘訪問された。秋田県日中友好協会と共に秋田県造園協会会長ら6名が訪中し、以前作成した日本庭園「友誼園」について報告した。	秋田県庁 企画振興部国際課
2020年		
1月3日	蘭州市友城工作処所長・朱玉明氏より蘭州の大学キャンパスに約100平方メートルの日本庭園を作成し、2022年の友好40周年記念にお披露目したい旨通知があった。	甘肅省外事弁友城 工作処 処長 朱 玉明
2月28日	李孟迪さんから甘肅省側の進め方について連絡あり。 ・蘭州市の大学のキャンパス50平方メートルの位に作庭 ・本年度の7月～10月末まで甘肅省へ現地調査に来てほしい。 ・建設時期は2022年8月、友好40周年式典に開園したい。 ・日本庭園の提案・企画は秋田県造園協会にお願いしたい。	甘肅省外事弁友城 工作処 李 孟迪
3月11日	甘肅省からスケジュール案が提案された。 2020年6月甘肅省で建設現場とその周辺の写真を秋田県に提供する。 (設計費は秋田県で負担、作成費用は甘肅省で確保する。) 2021年10月まで工事を完成させる。 2022年8月友好40周年記念に合わせ披露する。	甘肅省外事弁友城 工作処 李 孟迪
3月17日	甘肅省より追加情報。 2020年10月まで設計書を頂きたい。(予算確保のため) 2022年の春に植林した木が根付いたか、修正が必要か確認のため甘肅省に来てほしい。 2022年5月～7月位まで手直しをして竣工セレモニーを行う。 2名分の国際航空券代は秋田県に負担して頂きたい。 2名分のホテル代、食事代は甘肅省が負担する。	甘肅省外事弁友城 工作処 李 孟迪
6月19日	ワーキングチームの委員就任依頼。 (委員)加藤薫、木村昭彦、佐々木大、須藤純、吉田豊史 (アドバイザー)杉村文夫 ・設計については、吉田委員にお願いする。	会長 加藤 薫
8月14日	甘肅省と大学側の交渉進度について質問したところ、 【甘肅省からの回答】 友好40周年記念に日本庭園建設に対し、外事弁主任・友好協会会長・張宝軍氏は非常に重要視している。しかし新型コロナウイルス感染症により甘肅省経済も大きな影響を受けており、今後2、3年間は大幅な予算削減が予想され、現時点で日本庭園作成に予算確保できるか解らない。年末、年始頃明らかになると思われる。	甘肅省外事弁友城 工作処 李 孟迪
10月27日	甘肅省より細部協議。 ・甘肅省で作庭材料、工事費は負担するが、設計費用は秋田県でお願いする。 ・秋田県から関係者を派遣する場合、秋田市～甘肅省、甘肅省～秋田市の旅費は甘肅省で負担する。 ・作庭資材は中国国内で調達してほしいが、日本で調達する材料については秋田県で負担願う。 ・スケジュール 2021年8月頃 日本庭園建設打ち合わせと現地調査(県、造園協会訪中) 2021年9月～2022年3月 設計、材料発注	甘肅省外事弁友城 工作処 李 孟迪

年月日	概要	対応相手
10月27日	2022年4月頃 建設開始(施工管理のため造園協会訪中) 2022年4月中 完成 2022年8月頃 40周年記念式典(日本庭園開園式典) ・日本庭園のテーマは考え中です。	甘肅省外事弁友城 工作処 李 孟迪
11月10日	甘肅省より通知とお願い。 ・新型コロナウイルスが世界中に感染拡大していることから、日中両国のビザの査証政策から見ると本年度中の往來は無理と思われる。 ・また、甘肅省でも予算逼迫している現状から、渡航費用を秋田県にお願い出来ないか。	甘肅省外事弁友城 工作処 李 孟迪
2021年		
1月26日	甘肅省より資料が届く。 ・日本庭園の場所は蘭州理工大学西キャンパス機電工程学院と外国語学部との間に決定。 ・空地面積は650平方メートルで前に報告した150平方メートルの4倍位になる。 ・この空地利用を植栽なり緑化、日本庭園で埋めるよう計画してほしい。 ・その設計費用は秋田県で負担、造成費(材料、人工費)は甘肅省で負担する。 ・テーマについても秋田県にお願いする。 【資料】 1. 蘭州理工大学の概要 2. 日本庭園建設地の図面と写真 3. 写真の説明書	甘肅省外事弁友城 工作処 李 孟迪
2月1日	追加情報。 ・作成する場所に学生が休憩するスペースは不要(他にある。) ・完成した庭園は学生・職員以外に一般市民にも開放する。(観光客にも) ・誰のための庭園か?については、一般市民に広く開放し、より多くの庶民が私達両省の交流に獲得感を持たせることができる為の手段。	甘肅省外事弁友城 工作処 李 孟迪
2月15日	第1回ワーキングチーム会議。 ・経緯説明 ・作庭位置等資料説明(甘肅省から送付された資料) ・今後のタイムスケジュールの説明	林泉会館にて
3月30日	設計素案の検討。 ・吉田委員から3案の説明 ・会長、事務局長と吉田委員で検討 ・日本式庭園の縮小版で作成することを検討する。	林泉会館にて
4月21日	設計素案の検討。 ・日本式庭園の縮小版で作成したものを検討し、ワーキングチーム会議に提案する。	林泉会館にて
4月30日	甘肅省より今後の進め方について連絡があった。 ・設計図書は年内に甘肅省に送ってほしい。 ・40周年記念式典を1年延期するかどうかは8月頃に決定する。	甘肅省外事弁友城 工作処 李 孟迪
5月25日	第2回ワーキングチーム会議。 ・第1回ワーキングチーム会議以降の動きについて説明 ・日本式庭園作成案について検討 ・9月いっぱいまで設計図を完成させる。	会長 加藤 薫



現場に搬入された石材、形状、石質ともによく揃っている。



表面の表状に変化があり適材である。



すき取り、整地状況



敷砂利と飛石配置状況

年月日	概要	対応相手
6月2日	甘肅省より要求。 ・大学の希望により造園工事関連費用の一部を先に支払うため、設計図書を9月初めに提出してほしい。(可能である旨、返答した。)	甘肅省外事弁友城 工作処 李 孟迪
6月3日	甘肅省の意向。 ・蘭州理工大から、良ければ予定通り来年の3～4月頃から作成を開始したい。 ・ただし、新型コロナウイルスの状況をみて本年度下半期、秋田県と相談して決める。 ・現地等事前調査や工事の一部施工については、設計図書を頂いてから検討。	甘肅省外事弁友城 工作処 李 孟迪
6月8日	縮小版理事会(役員会)。 ・日本式庭園の設計図(案)の検討 ・設計委託契約について	会長、副会長
8月24日	(R3) ・甘肅省に提出する日本式庭園の内容について説明(吉田委員) ・日本式庭園の名称について、秋田側から2案を提案し国際課に一任 その後の対応は ・渡航費は、県予算に計上する予定(国際課)	林泉会館
8月26日	あきた白神の森倶楽部より蘭州市で生育する樹木資料を受けた。	あきた白神の森倶楽部 武田英文
11月11日	(R3) 日本庭園建設に係る造園技術者(秋田県造園協会関係者等の派遣が決定) ・予算要求 ・建設場所 蘭州理工大学敷地内 ・規模 640㎡ ・建設費等 概算2～3千万円 ・建設時期 R4・8月を提案(40周年記念式典)	国際課
11月19日	造園協会が副知事を訪問	国際課 三浦久人
2022年		
2月10日	日本庭園建設に関する情報 ・庭園の設計図の理解 ・庭園の給排水施設について	
2月10日	・庭園の設計図、給排水の代案について ・建設に係る技術者の派遣、期間、現場指導の依頼 ・8月予定の友好40周年セレモニーの提案	
2月16日	日本庭園建設打合せ会議 ・甘肅側の打合せ事項の確認 ・対応の検討 ・設計の要点の確認 ・資材の検討	会長 吉田豊史
2月22日	設計変更等の情報交換について	李 孟迪
5月27日	友好提携40周年記念式典について ・令和4年8月5日(日)開催 ・参加・招待者 知事、副知事 他 ・式典	国際課

年月日	概要	対応相手
6月28日	国際課より懸案事項連絡 ・現状 施工事業者が決まっていない 大学への部外者制限 実質外国人の入国を認めていない 省側と情報交換を継続 ・懸案事項 工事着工後の工程と訪問時期のずれ 国内移動制限と旅程に無理 ・対応 工事業者の決定と工程を造園協会への送付 造園協会の工程への対応 石組に係るスケジュールの提示 ・今後の対応 現段階で入国が無理、訪問時期を検討する	国際課
7月12日	(R4) 友好提携40周年記念式典案内 ・リモートによる式典を開催する 日 時 令和4年8月5日 10時～11時 場 所 秋田県庁 出席予定 秋田県側 50名程度 甘肅省側 50名程度	秋田県知事 佐竹敬久
9月29日	甘肅省から庭園工事の状況の報告 ・石工事が始まった ・工事のコスト縮減の為、基本工事終了後に、指導を要請する。 ・2週間程で完成予定(2022.10.15)	甘肅省外事弁友城 工作処 李 孟迪
10月5日	日本庭園監修訪問案は予算案の提示 秋田発～秋田着 5日間	国際課
5月9日	日本庭園監修訪問決定 庭園は既にほぼ完成	国際課 李 孟迪



中国風四阿建方の様子



正面入口庭門と板塀設置



赤印が建設場所

蘭州理工大学の概要

蘭州理工大学は甘肅省蘭州市に位置し、甘肅省人民政府と国家国防科学技術工業局が共同建設した大学である。
 学校の前身は1919年に建設された甘肅省立工芸学校である。1958年に、甘肅工業大学と命名された。1965年、学校は第一機械工業部に所属され、同時に東北重機学院(大学)と北京機械学院(大学)の水力機械、化学工業機械、石油鉦場機械と溶接技術という三つの学部をすべて転入し、湖南大学、合肥工業大学から一部の教員を甘肅工業大学に派遣した。1998年、“中央(国)と地方(甘肅省)の共同建設、地方管理を主とする”大学に転制した。2003年、正式に蘭州理工大学に改称した。
 大学には、本部と西キャンパスという2つのキャンパスがある。敷地面積は1.62平方キロメートル(そのうち西キャンパスの敷地面積は約0.87平方キロメートル)、校舎建築面積は108万平方メートル、図書館所蔵図書は222万冊。
 大学には19の学部、1つの教育研究部、大学院が設置されている。2つの国家級教育チーム、3つの国家級実験教育モデルセンターがある。在校生27599人があり、その中に大学院生は3878人である。
 学校には教職員2309人があり、そのうち専任教師は1570人、教授、助教授などの職員は890人、博士課程指導者は130人がある。
 学校は甘肅省で初めて工学博士学位授与権を持ち、最初に工学博士後科学研究流動ステーションを設置した大学である。現在9つの学科類は、工学、理学、管理学、文学、法学、教育学、医学、芸術学、経済学をカバーしている。

甘肅省に作庭する日本庭園に係るワーキングチームの第1回打ち合わせ会議 次第

日時：令和3年2月15日（月） 13：30～
場所：秋田市山王「林泉会館」

1. ワーキングチーム委員紹介

2. 一般社団法人秋田県造園協会
会長あいさつ及び経緯説明

3. 今後の活動内容について協議

- ・ワーキングチームを今後一般社団法人秋田県造園協会の特別委員会として仮称「甘肅省に造る日本庭園検討委員会」に改名するなどして役割分担を明確にする。

・現時点におけるタイムスケジュール

2021年8月頃まで	建設打ち合わせと現地調査（訪中）
2021年10月頃まで	設計書作成
2021年11月～12月	甘肅省における予算折衝
2022年3月まで	甘肅省の予算確保確認後、材料発注
2022年4月頃	建設開始（施工管理のため訪中）
2022年4月中	完成
2022年8月頃	秋田・蘭州友好40周年記念式典（日本庭園開園式典）

ワーキングチーム打ち合わせ会議出席者名簿

役名	氏名	会社名	備考
チームリーダー	加藤 薫	桂造園土木(株)	
委員	吉田 豊史	設計室春秋	
〃	須藤 純	(有)翠松園	
〃	木村 昭彦	(株)木村造園	
〃	佐々木 大	(有)ササヤス	
アドバイザー	杉村 文夫	むつみ造園土木(株)	
事務局	奥山 孝一		
〃	佐藤 環		

NIWA REPORT

秋田県・甘肅省友好提携40周年記念事業
庭園交流事業によって、庭文化を広める

文・写真＝加藤薫（秋田県造園協会会長（右）、桂造園土木代表）

中国北西部に位置し、敦煌などのシルクロードのオアシス都市として繁栄した名所が点在する甘肅省に、秋田県と甘肅省の友好提携40周年を記念し、日本庭園が作庭された。きっかけは、2019年6月に甘肅省から秋田県友好訪問団の招聘依頼があったことだ。甘肅省とは、1982年8月に友好協定を締結し、長年交流を重ねてきた。今後も交流促進を図るため、秋田県などの行政関係者と秋田県造園協会の民間関係者を招聘し、2022年の友好提携40周年に向けて、交流拡大のための検討会を開催するというものだった。

日中間交流40周年に向けて日本庭園を計画

2019年8月末から1週間の日程で、甘肅省秋田県日中友好協会と共に、秋田県造園協会会長等6名が訪中した。30数年前に建設し、その後の開発により消失してしまった日本庭園「友誼園」について、当時の報告書を甘肅省側代表団に提示し、事業の報告をした。

その後、2020年1月に甘肅省人民対外友好協会から庭園建設の依頼があった。前年に訪問した甘肅省人民対外友好協会友城工作所所長・宋王明氏より連絡があり、「前年にいただいた書籍『日本庭園』に掲載された西芳寺を始め、日本の庭の歴史と保存について、深い感銘を受けた。中日世代友好のため、中国の青少年も日本の庭園芸術に触れる場として、蘭州市内の大学に日本庭園を建設する計画があり、庭園の設計建設指導をお願いしたい。40周年記念に庭園の落成式と式典を共にやりたい」というものだった。

コロナ禍によりリモートで施工

依頼を受けて、かつて一度は消失した庭園が再度建設されることは、当時尽力された関係者の労苦に報いることでもあり、大変喜ばしいと感じた。早速、協会役員にはかり、建設に向けて取り組み始めた。プランは秋田県造園協会が作成した。庭園の様子は枯山水回遊式庭園で、意図的に簡素なものを基本構造とし、現地での判断、調整をもって、日本的なもの創出を図ることとした。庭園要素を石庭に見出し、簡潔な中にも自然の整合性を活かす。現地の生態環境の中で生育可能な植栽材料を配置し、順応性を重

視する。東島と西島を結ぶ石橋を架け、友好のシンボルにするプランだ。

ところが想定外のコロナ禍で、順調に進むかと思えた計画に予測のつかない状況がしばらく続いた。情報量が少なく、情報交換もスムーズにできなかったことで、随分と気をもんだ。リモートで開催予定だった記念式典が中止になるなどの変更もあった。当初の計画では、日本側が訪中して、中国側と共に作庭する予定であったが、コロナ禍で叶わず、庭園の施工は甘肅省側が秋田県造園協会の設計書を基に施工した。施工中は不明点等もその都度メールで確認し合いながら工事を進めた。甘肅省側は設計図面を検討した上で、設計内容、コスト等を考慮し、変更を重ねて完成にこぎつけた。後日、設計工事を担当した一山景観から資料を提供され、設計検討から施工までの現地の状況が判明し、経緯に納得した。

「庭」を介した文化交流

今年7月ようやく現地訪問が実現し、庭園管理指導を行った。庭園のアプローチは石貼りから板貼りに変更されていた。庭門は両袖の竹垣と

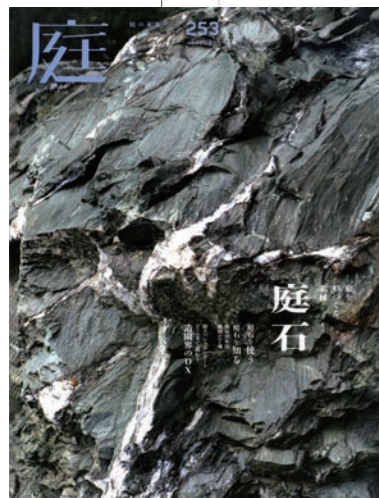
共に本製に変更され、中国風のつくりになっていた。飛石の打ち方が一直線になって変化に乏しく、決め方が緩く、ガタついていた。東屋は庭門と同じ中国風建築物に、友好のシンボルである石橋は太鼓橋になっていた。一方、石組は滝石組と景石は氣勢がよく出ていて、日本式に近い石の扱いに長けている。石砂利は白砂利がしっかりと敷き詰められ、上を歩いても動かない。植栽は常緑針葉樹が中心で、全体にとんがった印象だが、芝生はよく成長し、敷き砂利とのラインがくっきりとして美しい。大学構内の中庭に完成し、周囲の景色とは別物の雰囲気を感じていた。

この度の秋田県・甘肅省庭園交流事業が、今、造園業界に魅力ある将来の方向性が見えにくい中、造園事業のヒントの一つになれば幸いである。世界第二の経済大国である中国は長い歴史と優れた文化を持つ国である。日本文化の源流が多くある国と「庭」をキーワードに交流し、造園事業の振興を図れないものか。今回、一山景観の仕事を知ったことで、改めて中国の造園技術の力量を実感することにもなった。

※別冊にはプロジェクト施工時点

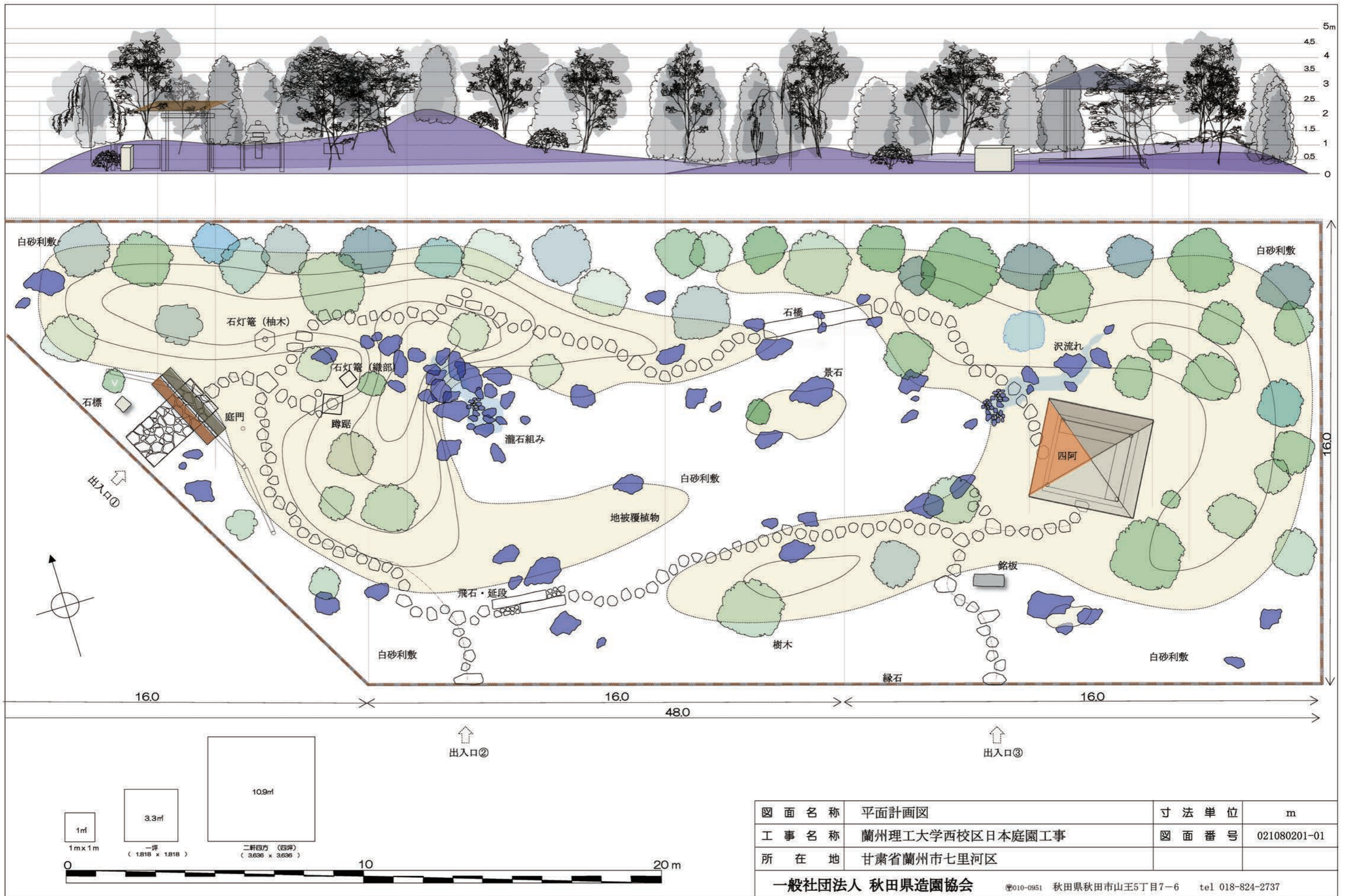


左上 現地を視察する一行。
右上 中国甘肅省蘭州理工大学構内に完成した日本庭園。
下 約30年前に建設し、その後の開発により消失してしまった日本庭園「友誼園」。



「秋田県・甘肅省友好提携40周年記念事業」が掲載された「庭」No.253（2023年11月1日発行）

■ 構想平面図



中国側制作のシミュレーション



正面入口庭門



四阿と小滝石組



上空から庭門付近



二つの島を結ぶ石橋



正面入口から四阿を見る



四阿周辺見返り

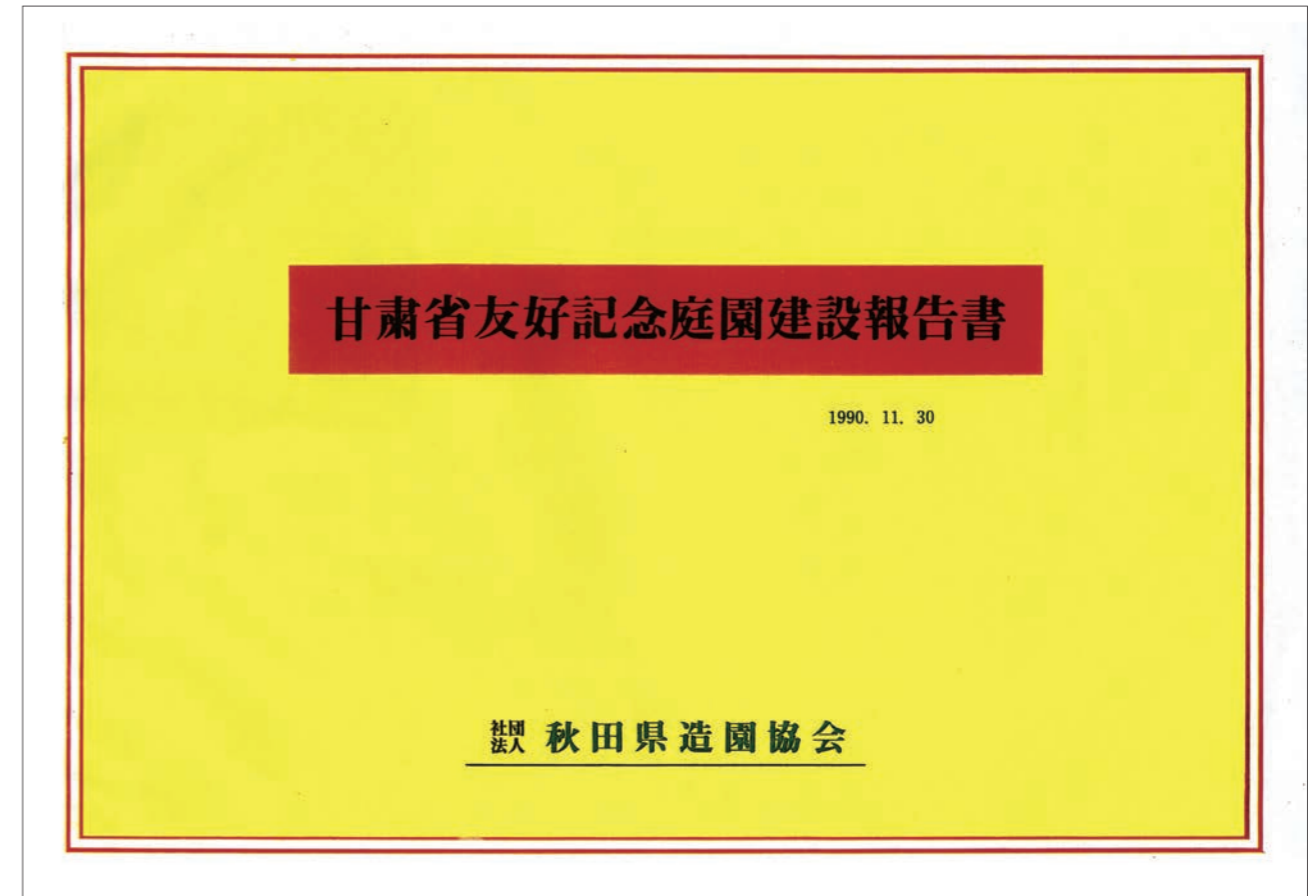


四阿付近



主滝石組周辺の景色

甘肅省友好記念庭園建設報告書(1990年)



観 秋田県造園協会



社団法人 秋田県造園協会 会長
村木 伯光

ごあいさつ

昭和63年から平成2年まで、足掛け3年間に亘る中国との造園文化に関する国際交流は、この度予期以上の成果を収めて一応終止符を打つことになりました。

願みれば、青年達の夢とロマンを求める発想から始まったこの計画は、私達にとっては全く未知の分野ばかりであり苦勞の連続でありましたが、これを支えてくれた会員並びにご指導下さった各界の人々には心から感謝申し上げます。

庭園の建設は国際交流の意味から日中合作で進めて参りました。技術の交流はもとより、接触を持った人々相互の理解と信頼がはかられたことは、両国の友好にとって幸いであつたと考えている次第であります。

協会としてはこの事業を行ったことにより、有形、無形の収穫がありました。

直接建設に参加した青年達は、自らの手で日本の造園文化を異国に建設したという自信と誇りを持つ事が出来ました。

又、ご指導いただいた各界の人々からは物心両面の暖かい支援をいただいた以上に、度重なる接触によって得られた心の結びつきは今後の協会運営にとって大きな支えになることと思っております。

この度の事業は、我が協会にとっては記念すべきものであり、長くその経緯を残しておきたいと考え、ささやかではありますがこの報告書を作成した次第でありますので今後ともよろしくご指導下さるようお願いいたします。



ごあいさつ

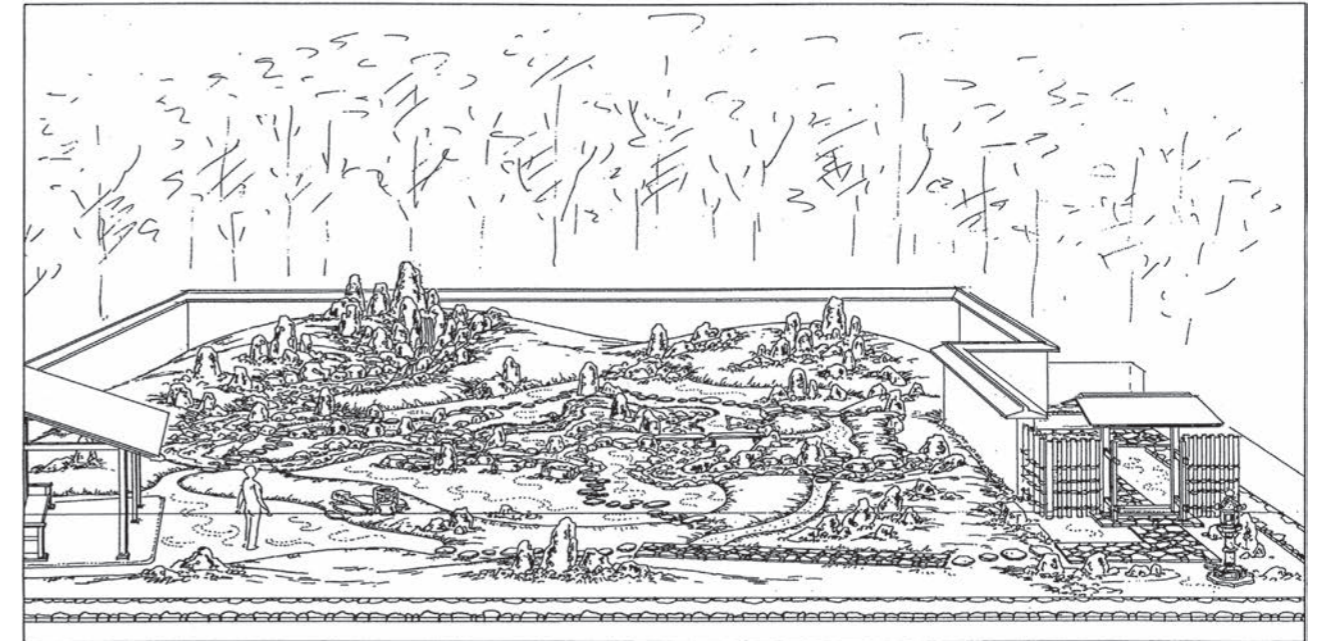
秋田県副知事 池田 竹二郎

本日、秋田県と甘粛省との友好のシンボルとなります日本庭園の落成式を盛大に挙行されますことを、共にお祝いしたいと存じます。

また、日本庭園の建設に当たりまして、ご尽力下さいました甘粛省人民政府、蘭州市人民政府、秋田県造園協会、さらには関係者の皆様に対しまして、秋田県民を代表して、厚くお礼を申し上げます。

さて、完成した日本庭園を目にして、私は、一入の感概を覚えております。顧りみますと、1988年6月、両県省が庭園建設について合意いたしました。その後、諸情勢の変化によりまして、一時的ながら困難に直面いたしました。しかし、秋田県と甘粛省は、これまでに築き上げた固い信頼と友好の絆を基に、強い連帯感と熱意でその困難を克服し、2年余りを経て目的を達成したのであります。相互の理解と努力で完成した日本庭園は、小規模ではありますが、まさしく名実ともに、県省友好のシンボルといえます。

来年の春には、庭園の周囲に秋田で育った桜の苗木が植栽されますが、甘粛の自然の中で、子々孫々にわたって友情が深まり、永遠に栄えるよう、美しい花を咲かせるものと存じます。



ごあいさつ

甘粛省省長 賈 志傑

副知事を始めとする秋田県の皆様の甘粛省訪問を心から歓迎いたします。

本日竣工式を迎えた「遊誼園」は、秋田県、秋田県造園協会、その他多くの方々、並びに甘粛省、蘭州市の協力と努力によって完成し、甘粛省、秋田県にとっては永遠の友好のシンボルとなりました。

改めて深く敬意と祝意を表します。

又、時を同じくして秋田県において開催された甘粛省文物展は大成功を収め、日中の友好に大きく寄与することが出来ましたことは、秋田県の皆様のご配慮によるものであり、この席をお借りして厚くお礼を申し上げます。

1992年には甘粛省、秋田県の友好締結10周年に当たります。

これまで日中の各分野における友好交流に成果を上げて参りましたが、これを契機として、双方の友好交流が一層進展するよう祈念いたします。

皆様方にはごゆっくり甘粛省を見聞されることをお願いすると共に、お帰りになられましたら佐々木知事よろしくお伝え下さい。



友誼園 — 友好の足跡 —

発行日：2024年3月

発行：一般社団法人 秋田県造園協会

〒010-0951 秋田県秋田市山王5丁目7-6

TEL 018-824-2737 FAX 018-862-2725

印刷：秋田協同印刷株式会社

